

○3 番（森英樹君）

3 番森です。

今回の一般質問では、わが町が友好都市縁組している自治体との関係性と今後の展望について質問したいと思います。

本町は、これまで複数の国内自治体と姉妹縁組、友好都市関係を結び、教育交流、観光振興、文化事業などの分野で連携を図ってきたところでございます。

しかし、新型コロナウイルスの影響や自治体間の意識の変化により、近年一部の縁組自治体との交流で、停滞や中断が見られます。

一方で、人口減少や、地域資源の活用が課題となる中、こうした縁組関係を戦略的に生かすことは、今後重要になってくるんじゃないかと考えております。

そこで、現在の縁組状況、交流の実態、今後の方向性についてお伺いしたいと思います。

まず、質問の1ですけども、友好縁組自治体数について、まず、町が国内で縁組を結んでいる自治体など、何カ所ありますでしょうか。お答え願います。

○議長（濱野良一君）

総務課長 濱口浩司君。

○総務課長（濱口浩司君）

森議員のご質問にお答えいたします。

現在、土庄町が友好都市縁組などを結んでいるのは5自治体でございます。

○議長（濱野良一君）

森英樹君。

○3 番（森英樹君）

いま課長おっしゃってた5自治体の直近5年間の交流実績等を教えていただきたいんですけども。

○議長（濱野良一君）

濱口課長。

○総務課長（濱口浩司君）

森議員の再質問にお答えいたします。5つの自治体でございますけど、「歴史友好都市」といたしまして昭和60年4月7日に岡山県津山市、「友好都市」といたしまして平成7年7月1日に富山県南砺市旧の井波町でございます。「ふれあい交流」といたしまして平成19年7月28日に大阪市浪速区、「友好公園」といたしまして平成22年10月10日に大坂城残石記念公園と愛宕公園青森県の野辺地町でございます。「友好交流」といたしまして平成29年7月28日に長崎県雲仙市、と協定等を締結しておる状況でございます。

先ほどの経緯、活動状況等につきましては、津山市、野辺地町につきましては生涯学習課より、南砺市は教育総務課より、浪速区、雲仙市は商工観光課より順

次ですね、ご説明させていただきます。

○議長（濱野良一君）

生涯学習課長 岡本高志君。

○生涯学習課長（岡本高志君）

森議員のご質問にお答えいたします。

生涯学習課からの方は、津山市及び青森県野辺地町愛宕公園との交流状況について、お答えさせていただきます。

歴史友好都市である津山市との交流につきましては、スポーツ少年団を対象とした交流となり、具体的には、毎年お互いに町にスポーツ少年団の子どもや指導者などを招き、スポーツやレクリエーションなどの活動を通じて、お互いの友情を深めるとともに、スポーツ少年団のさらなる充実、発展を図ることを目的として、交流を行っております。令和2年度から4年度までは、コロナ禍により、交流が中止となり、5年度から再開をいたしましたが、昨年度は、土庄町側の参加児童数が目標数に達せず、再び中止となってしまいました。しかしながら、今年度は8月に津山市からのスポーツ少年団をお迎えすべく、準備を進めているところでございます。

次に、野辺地町、愛宕公園につきましては、小海の残念石の一部が、愛宕公園の石段などに使われていたことが判明したことから、友好公園の縁組に至ったもので、交流活動としましては、野辺地町で開催されるイベントでの物産展のために、同町側からの要請に基づきまして、土庄町の特産品を送付しております。令和2年度から4年度までは、コロナ禍により中止をしておりましたが、5年度から再度要請があり、残念公園から特産品を送付しております。以上です。

○議長（濱野良一君）

教育総務課長 堀康晴君。

○教育総務課長（堀康晴君）

森議員のご質問にお答えいたします。

教育総務課からは、富山県南砺市との交流状況につきまして、お答えをいたします。

南砺市とは、合併により南砺市が誕生する前の井波町との間で、東洋紡績の工場がお互いに立地するご縁から交流が始まり、平成2年以降、夏に南砺市の子どもたちが土庄町を訪問し、小豆島まつりへの参加やホームステイを行い、冬の時期には、土庄町の子どもたちが南砺市を訪問し、ホームステイをしてスキーを楽しむなどしておりました。しかしながら、平成25年以降、参加児童の激減によりまして、双方協議の上、事業を休止するに至っております。以上でございます。

○議長（濱野良一君）

商工観光課長 蓮池幹生君。

○商工観光課長（蓮池幹生君）

それでは、商工観光課からは、大阪市浪速区及び長崎県雲仙市につきまして、お答えいたします。

平成19年に浪速区の「なにわの日」制定を契機に、土庄町と浪速区の間でふれあい交流提携が締結されました。この提携は、両地域の自然、観光、流通、教育など、さまざまな分野での交流を通じて人々が交流し、活気とにぎわいをつくり出すことを目指しております。土庄町から浪速区に運ばれた大阪城の残念石を用いた坪庭整備事業が、この提携のきっかけの一つで、ふれあい交流提携に基づき、毎年、浪速区のイベントに土庄町がPRブースを出展しており、また、平成29年には交流10周年を記念して、浪速公園に石の絵手紙を2基設置するなど、両地域の交流を続けております。

雲仙市につきましては、寛永14年の島原の乱で、壊滅状態になったとされる島原半島南西部の旧串山村、現雲仙市南串山町でございますが、小豆島から人々が移住したことを機に、両市長はこれまで交流を進めてきました。こうした歴史的つながり、きずなを次世代につなぐため、平成29年7月、両市町間で友好交流協定を締結いたしました。雲仙市からは、11月に開催されます、ふれとびあフェアに毎年特産品ブースを出展しております。また、12月には、雲仙市産業まつりに毎年土庄町がPRブースを出展し、雲仙市の小豆島望郷化保存会などとともに、連携して、土庄町の特産品などのPRを実施、交流を深めているところです。また昨年度は、産業まつりのほか、雲仙市の特定地域づくり事業協同組合への行政視察を行うなど、定例の交流外でも親交を深めております。以上です。

○議長（濱野良一君）

森英樹君。

○3番（森英樹君）

所管担当からのそれぞれの説明をいただいたわけでございますけれども、何点かお伺いしたいと思います。

まず、井波町の交流の件でございますけれども、活動停止に至った大きな要因として、相手側の合併が大きな要因であると思うんですけれども、その井波町が周辺の地域と合併して、南砺市になったということで、今の井波町が南砺市の中でどれぐらいの位置付けいいますか。どことどれだけ合併して、どういう感じになったとか、ちょっとわかる範囲で結構でございますので、教えてくださいませんか。

○議長（濱野良一君）

堀課長。

○教育総務課長（堀康晴君）

森議員の再質問、お答えいたします。

井波町ですが、かつて富山県にあった町ですが2004年、平成16年11月1日に、井波町を含む8自治体8町村が合併して南砺市が発足しております。

当時の人口は、南砺市全体で言いますと5万9230人。こちらが、現在5月末の人口ですと、4万5604人となっております。その中で、井波町の人口が、5月末時点では、7561人ということで、全体比率で言いますと、16.58%の規模でございます。以上でございます。

○議長（濱野良一君）

森英樹君。

○3番（森英樹君）

ありがとうございました。合併した相手先がですね、それぞれに姉妹提携縁組なんか結んでる場合はですね、なかなかそれをすべて続けていくというのは難しいかと思えます。そういった中で今回、土庄町との姉妹縁組がちょっと中断というふうになってると理解しております。それでよろしいですね。

あと1点、お伺いしたいと思います。津山市の交流でございますけれども、先ほどあちらの方に交流に行くのに生徒がかなり減ってきておると。参加人数が。これスポーツ団の減少とかいうような影響があるわけでしょうか。

○議長（濱野良一君）

岡本課長。

○生涯学習課長（岡本高志君）

森議員の再質問にお答えいたします。

スポーツ少年団の減少の影響についてでございますが、議員がおっしゃられますとおり、少子化に伴うスポーツ少年団の加入団員の減少とですね、あと社会的環境の変化に伴います参加者の減少という課題がございます。以上です。

○議長（濱野良一君）

森英樹君。

○3番（森英樹君）

生徒数の減少、またスポーツ少年団への加入、というようなところかと思えますけれども、こちらから行かずに今年度来られるということなんですけれども、行く場合もぜひ行かないかんとということで、生徒に負担がかからないような形で、交流を行っていただきたいのと、あと行かない場合にコロナ禍を契機でオンライン交流等やってるということをいろいろとニュースで伺ったりするんですけども、そういった交流は考えたりはしないんでしょうか。

○議長（濱野良一君）

岡本課長。

○生涯学習課長（岡本高志君）

森議員の再質問にお答えいたします。

交流活動につきましては、現在の交流活動の方を続けていくような形で、今現在考えております。それと令和2年度からですね、4年度のときにコロナ禍によりまして中止となったときにですね、オンライン交流等についても、検討はしたんですが、コロナ禍により交流活動が中止になった期間のオンライン活動、オンラインでの交流につきましては、コロナ禍ということもありまして、子どもたちを特定の場所に集めること自体が感染リスクを高める可能性がありましたので、オンラインの交流については実施できておりませんでした。以上です。

○議長（濱野良一君）

森英樹君。

○3番（森英樹君）

内情よくわかりました。物産の方の商工観光課の課長もいろいろと物産を送ったり、送られたりということで、私も購入したりしたことがございますのでよくわかります。以上で各担当課長からの交流の詳細内容について説明を受け、現状はよくわかりました。

次にですね、今後の交流の展望ですけれども、町の総合計画には、地域間交流と、広域連携の推進の項目に、他市町との交流事業に積極的に取り組み、地域の活性化や人材育成を推進しますというようなこと記載がありますけれども、土庄町として、現状をどのように認識し、今後どのような、対応する方針でしょうか。全般的な考えを町長、お聞かせいただけますでしょうか。

○議長（濱野良一君）

岡野町長。

○町長（岡野能之君）

森議員のご質問にお答えいたします。

本町が、友好都市縁組などを結んでいる5自治体との関係は、その背景や交流内容、これまでの経緯等がそれぞれ異なりますので、一概に論じることはできませんが、総論的には、せつかく何かしらのご縁により、縁組に至ったものであることを鑑みますと、できるだけ相互の関係を大切にしていきたいと思っております。

友好都市縁組などによる地域間の交流は、相手の地域への理解と尊重の精神を育むとともに、我が町の歴史や文化の掘り起こしや再認識にもつながります。そうした意義について、町民の皆さまに広く周知し、相手方との関係性や、その地域の紹介をしていくことにより、より多くの方々が関心を持ち、市

民レベルでの交流が続いていくことが望ましいと思っております。

地理的に遠いことや、費用面などの難しい面もありますが、SNSでお互いの交流情報を親しみやすい形で配信し合うほか、新しい分野での交流や情報交換なども含めて、できることは積極的に行ってまいりたいと思っております。

○議長（濱野良一君）

森英樹君。

○3番（森英樹君）

ありがとうございます。前向きに進めていくというようなところが基本ベースかと思われま。

最後に、町が大学や研究機関と進めている域学連携、直近では東大との協定があり、その実践を通して成果を上げていることに私注目しております。例えば、町中マップを作成したり、小豆島の資源を生かした石チョコの開発、地域課題と創造的連携の成果がここに表れているのかなと思います。

縁組自治体の関係についても同様に、課題共有と競争のパートナーとしての見直し、関係性を進化、再定義するタイミングに来ているのではないのでしょうか。今一度、町として連携自治体との、どのようなテーマで、どのような方法で交流を続けていくか、その根本を見直す時期に来てるんじゃないでしょうかと申し上げて私の質問を終わります。ありがとうございました。